

令和 6 年度 環境審議会 第 3 回家庭系ごみ専門部会 会議録

日時	令和 6 年 5 月 3 1 日（金） 1 3 時 3 0 分～		
場所	7 0 3 会議室		
案件	家庭系ごみの一部有料化・戸別収集制度の検証について （１）収集方法 （２）資源物 （３）減免制度 （４）支援制度 （５）その他の取り組み		
出席委員	山谷委員、堀委員、藤田委員、清水委員、吉澤特別委員、萩原特別委員、柳下特別委員、計 7 名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0 名
事務局	経済環境部：佐藤部長、吉澤次長 資源対策課：佐藤課長 環境政策課：小野寺課長、石川係長、原主事補		

1 開会

2 議事

（１） 収集制度

→原案どおり

- 委員 A 隔週収集にすると市で集める量は減る。
スーパーで回収しているところに持って行く方が増えると思う。
日野市では「おかえし作戦」という名称で販売元に回収してもらえるようにしている。
市の収集コストは思っていた以上に削減はされない。
- 事務局 集合住宅の場合 2 4 時間出せるため、隔週収集にすると集積所のキャパを超えてしまう可能性があると思う。
- 委員 B ペットボトルや容器包装プラスチックは山のように排出されると思う。
隔週収集になったら、出せる曜日が少なくなるため、排出する量も抑えられると思う。
- 委員 C 私はアルコールを毎日飲むので、缶が毎日出る。ペットボトルはつぶす等の工夫ができれば隔週収集は可能だと思う。
- 委員 D ペットボトルは毎週出ない。紙類がすごく多い。
- 委員 E うちの地域は 75 歳以上が 120 名程いる。ごみ出しのお助け隊で年間 80 件支援している。昔、紙の回収は子ども会がやっていた。今は子ども会自体ひとつもない。
- 委員 F 容器包装プラスチック以外は、隔週収集でもいいと思う。ペットボトルはこれまで通りの回収の方がいいかもしれない。

- 委員B かさ張るものや重たいものは、隔週収集に向かない。
- 委員A 高齢者は、戸別収集がいいかもしれない。
- 委員G 容器包装プラスチック、ペットボトル、紙類は毎週の方がいい。隔週収集になると1回に排出する量が増えてしまうため、排出方法が課題になる。
- 委員A 古紙は戸別収集が向いている。葉山町では、容器包装プラスチックを分別収集している。
詰め替え用の容器やコンタクトレンズ、歯ブラシなどのメーカーと自治体が協力して専用の回収ボックスを設置しているところもある。製造メーカー自ら回収する働きは大事である。

(2) 資源物

→原案どおり

- 委員F 剪定枝の50センチという基準をもう少し長くしてほしい。
- 事務局 固形燃料化する工程のなかで、ベルトコンベヤに流す。そのベルトコンベヤの幅が50センチであるため排出の基準を50センチにしている。堆肥化の場合は、長さに基準はない。
- 委員E 剪定する段階から地域のお助け隊にお願いする方が多い。特に高齢者。
- 委員A 予約方法とはどういうことか。
- 事務局 現在の予約方法は電話のみである。電話だと受付時間に限りがある。LINE申請等オンラインでの予約が取れるように検討している。
- 委員B オンライン申請にすると回収量が増えるという見込みか。
- 事務局 そのとおり。
- 委員B 資源物としても燃やせるごみとしてもどちらも排出できる体制がよくないのではないか。
- 委員F 出し方の基準を見直せば回収量は増えると思う。剪定枝をしばって出すのではなくて、ラベルを貼っておけば回収してくれるような制度を設けるのがいいと思う。予約方法の見直しよりも出し方の基準を見直す必要がある。
- 委員A 家庭系の生ごみのリサイクルは、肥料化にはあまり向いていない。事業系の生ごみのリサイクルを進めていく必要がある。
紙おむつのリサイクルは福岡県の大牟田市で企業と協力してリサイクルしている。ただ、エコタウン等の自治体に受け入れを拒否されることもある。

(3) 減免制度

→原案どおり

- 委員A プッシュ型で送っている自治体は少ないと思う。対象者が取りに行く方法が一般的だと思う。海老名市役所は駅から近くアクセスがいいので取りに来やすいと思う。
世帯人数が増えれば一人あたりのごみ量は、減っていく。
- 委員E 減免対象者から受け取りたくない等のクレームはないか。
- 事務局 とくにない。
- 委員F コストインセンティブは必要ないと思う。ごみ減量の意識付けをすればいいのではないか。

委員D 至れり尽くせりだなと思う。

(4) 支援制度

→原案どおり

委員A 電動式の上限額を下げて非電動式との差を縮めるのがいいと思う。非電動式は時間もかかるため、電動式が楽。ロコミの影響もあるのではないか。東日本大震災の時に電気を使わないようにするため、電動式の補助をやめた自治体もある。

委員F 手軽さや楽さで電動式を選ぶ方が多いと思う。

委員E 補助金の周知の仕方を工夫するべき。アピールの仕方が大事である。

(5) 支援制度

→原案どおり

委員A 集積所管理者のモチベーションにつながっていいと思う。

3 その他

特段なし